

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 1	石川県かほく市		所在市町	かほく市
連絡担当者	所属・役職	健康福祉部こども家庭課		
	氏名	澤野 智志		
※活動の窓口となる担当者	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	かほく市における若年世代へのプレコンセプションケア推進
	内容	近年、日本ではプレコンセプションケアが国の施策として推進されている。これは、性別を問わず、適切な時期に性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う取り組み取りである。こうした動きの中で、若年期からの健康管理やライフプランニングの重要性が認識されている。 かほく市は、子どもの健やかな育ちを大切にするまちづくりを推進するにあたり、子どもが将来、次世代を育む世代へと成長するまでの切れ目のない支援の重要性を認識している。また、将来の妊娠を見据えた支援として「プレ妊活健診助成事業」を実施している。しかし同事業は健診費用の助成中心の支援であり、思春期から青年期にあたる10～30代の若者に対して、ライフプランや健康に関する知識を体系的に届ける取り組みは十分に構築されているとはいえない。 子どもの健やかな育ちを持続的に支えるためには、若年期から自らの身体や将来について主体的に考える機会を創出することが課題となっている。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割	概要 (一行程度)	参加型啓発イベントを通して、若年世代がプレコンセプションケアを自分ごととして捉えられる機会を創出する。
	内容	かほく市は、大学ゼミによる調査の受け入れ、養成研修・イベントの企画・運営補佐、広報を行う。 大学ゼミは、養成研修・イベントの企画・運営、調査の計画・実施を担当する。 ○ピア・サポーター養成研修の実施 性や健康に関する正しい知識を有し、同世代にわかりやすく伝えることができるピア・サポーターの養成研修を開催する。研修ではプレコンセプションケアの基礎知識、性や健康、ライフデザインに関する内容を学ぶと共に、対話力や伝達方法など実践的なスキルを習得する機会を設ける。 ○学園祭における啓発イベントの実施 養成したピア・サポーターを中心に、看護大学の学園祭において啓発イベントを実施する。イベントの企画・運営には大学生ならではの発想を取り入れ、若者が関心を持ちやすく、自身の生活や将来と結びつけて「自分ごと」として考えられる内容とする。参加型の企画や対話を通して、若者が自らの身体や将来について主体的に考えるきっかけを創出し、若年世代への継続的な情報発信と地域内での理解促進を図る。広報においても、大学生の視点を活かし、SNS等を活用した発信や親しみやすい表現を用いることで、若年世代に届きやすい情報提供を行う。 ○ニーズ調査 若年世代を対象に、性や健康、ライフプランに関する関心や課題についてニーズ調査を実施する。調査は、若者が自身の経験や将来を振り返る機会となる設問構成とし、得られた結果をもとに、より「自分ごと」として受け止められる支援内容や広報方法の検討につなげる。
3 課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標		ピア・サポーター養成研修1回、イベント1回企画・実施を達成目標とする。

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	石川県立看護大学：講師 桶作梢、准教授 松田幸久 金沢大学：尾島恭子	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	○	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 2	林中まちづくり委員会		所在市町	白山市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	林中まちづくり委員会 事務局長		
	氏名	北村 光志		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	キャラクターを活用した地域の賑わいづくり
	内容	昨年、地域の子供から公募し、選定した地域キャラクターを地元に着させ、認知度を拡大し、地域イベント等での活用で地域活性化につなげたい。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	キャラクターを活かした賑わいづくりの有効策
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に周知し認知を広げる</li> <li>・活用の幅を広げる</li> <li>・イベント等での活用</li> </ul>
3 課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用の具体化(種類)</li> <li>・イベントなどでの認知調査</li> </ul>

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい大学・ゼミ教員名	金城大学、金城大学短期大学部	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 3	NPOエコラボ		所在市町	金沢市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	事務局		
	氏名	中村 早苗		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	「脱使い捨て」金沢モデルの構築：学生の行動変容分析と給水スポットの多角的価値創造
	内容	私たちは、Refill Japanの地域プラットフォームとして、給水スポットの調査・拡大や脱炭素ライフスタイルの提言を行ってきました。金沢駅前での実証実験を通じ、給水ニーズの高さは確認できたものの、全国的にペットボトル生産量は依然として増加傾向にあります。本課題の核心は、「インフラ（給水スポット）があっても、行動（携行）が伴わない」という心理的・社会的障壁にあります。金沢の豊かな水資源を活かし、利便性だけでなく「地域愛」や「経済性」を付加価値とした、持続可能な「地域循環型マイボトル利用モデル」の確立が急務です。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	本事業では、学生を「調査対象」ではなく「共創パートナー」と位置づけ、以下の3点に取り組みます。
	内容	○「給水パートナー制度」のUX（体験）デザイン： 公共施設に加え、商店街やカフェを巻き込んだネットワークを構築します。学生には、若者が「入りたくなる・給水したくなる」店舗の条件や、金沢市公式アプリ等との連携施策を提案・検証してもらいます。 ○ナッジ理論を用いた「つい持ち歩きたくなる」仕組みの実証： 「なぜ持たないのか」という心理的障壁をアンケートとフィールドワークで解明。環境意識に頼らない、ナッジ（思わず動いてしまう仕掛け）を用いた行動変容実験を、キャンパスや街中で共同実施します。 ○多角的価値の可視化と発信： CO2削減量といった環境データに加え、マイボトル利用による「年間節約金額（自販機からマイボトルへの変換）」や、給水時の「地域コミュニティとの接点（会話など）」を定性的・定量的に分析し、学生ならではの感性でレポートやSNSで発信します。  以上の観点から環境学だけでなく、マーケティングやデザイン、心理学を学ぶ学生を求めています。特に、分野横断的な視点（環境×経済×心理）で社会課題を捉えたいゼミを求めています。
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	これまでの取り組み・成果： 金沢駅前での実証実験を通じたニーズ把握、および市内クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）への給水機能付加の提言を行ってきました。 <a href="https://www.facebook.com/events/760582975583859">https://www.facebook.com/events/760582975583859</a> 令和8年度の成果目標： 1. 「給水スポット」登録件数の目標設定：アンケート調査を50箇所以上実施し、市内店舗・オフィスの10箇所以上給水スポットを開拓する。 2. 学生による「行動変容モデル」のプロトタイプ作成：分析結果に基づく啓発ツールの制作。 3. 環境・経済効果の算出：実証期間中のペットボトル削減推計数およびCO2・家計負担削減額の可視化。 4. 政策提言：観光と環境が共生する「サステナブルツーリズム」への応用を見据えた最終報告書の作成。（次年度以降の金沢市への政策提言の基礎資料とする）	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名		
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか		事前に相談している
	○	事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 4	穴水町役場		所在市町	穴水町
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	子育て健康課 課長補佐		
	氏名	関 敦子		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	被災高齢者の自立支援
	内容	<p>奥能登の玄関口に位置する穴水町は、震災後、令和7年には高齢化率が5割を超え、また65歳以上の高齢者がいる世帯は7割と、少子高齢化がさらに加速している。高齢者一人ひとりが健康の維持に努め、地域で自立した生活を送れるよう継続した働きかけが必要である。</p> <p>支援者となるマンパワー不足が課題であり、地域資源（人材など）の掘り起こしやマッチングなどを行い、高齢者の自立支援につなげていただきたいと思います。</p>
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	多世代交流における高齢者の自立支援
	内容	<p>高齢者の自立支援に向けて、健康カフェを実施する地域の拡大を図り、行政や教育関係機関、医療機関や歯科医師会、社会福祉協議会、ボランティア団体、地域の健康づくり推進員など地域資源の把握、他機関連携による健康カフェやイベント等の開催する。</p> <p>また、その際には地域の子どもから高齢者まで多世代交流による高齢者の自立支援を向けた働きかけを他機関との連携で取り組みたい。</p>
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	<p>これまで、被災高齢者の健康支援を発生直後から継続して、若者と高齢者との交流を通して活動していただいて、高齢者にとって「心と体が活性化する刺激」となって、活力が得られている。地元高校生との交流をマッチングしたことにより、地域資源の掘り起こしにつながった。</p> <p>令和8年は、継続して取り組む地域を拡大し、多世代交流の機会を増やし、さらには他機関との連携のしくみづくりにより、高齢者の自立支援の促進を図る。</p>	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	石川県立看護大学 垣花ゼミ	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 5	一般社団法人春蘭の里実行委員会		所在市町	能登町
連絡担当者	所属・役職	代表		
	氏名	多田 真由美		
※活動の窓口となる担当者を記入してください。	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	関係人口のつながりの維持
	内容	震災後に関係が切れてしまったこれまでの来訪者や地域出身者、普段は地域行事に参加しにくい高齢者、若い世代、学生との関係づくりが課題である。 また祭り支援を、学生の善意や一時的参加に依存する形から、役割分担・記録・育成を備えた継続可能な運営体制へ移行することでより広い参加者との繋がりをつくることも可能となると考える。 地域の住民と外の人をゆるやかにつなぎ直し、「祭りのときだけ会う関係」から「日常的に関わりを持つ関係」へ発展させることをめざしたい。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	宮地キリコ祭りの記録・発信を活かした関係人口づくりと継承の仕組み化プロジェクト
	内容	キリコ祭りの準備・運行・安全管理・声かけ・参加者受入れ・記録作成などについて、学生と地域住民が共同で運営手引きとなる記録を作成する。 また、新規参加学生向けの事前学習会、祭り当日の役割別マニュアル、振り返り会を整備する。 加えて、地域側・学生側双方の負担が大きい箇所を整理し、翌年度以降の参加者募集方法や引継ぎ方法まで含めて仕組み化する。これまで行われてきたキリコ準備・運行体験や記録活動を、再現可能な形に転換する取り組みである。  まつりの際に宮地地区で小規模な交流会を実施する。 内容は、住民のお茶会、学生との聞き書き交流、祭り写真の展示、昔の暮らしや震災後の生活を語るミニ座談会などとする。  祭り当日だけでなく、準備期・振り返り期にも集まる機会を設け、地域外在住者には記録冊子やオンライン配信で接続する。これまで実施してきた交流サロンと住民インタビューを、単発のイベントではなく、継続的な「参加の場」に再編する構想である。
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	これまでの2年間は ・キリコ祭りの復活・継続支援 ・地域住民との交流サロン ・住民インタビューによる「語り」の収集 ・記録集・大学HP・学内掲示による発信 という流れで、祭りの継続そのものだけでなく地域の記憶と関係人口をつなぎ直す活動が積み上げてきた。 この蓄積を踏まえると、3年目は「祭りを支える」段階から一歩進み、地域内外のつながりを再編し、継続可能な地域コミュニティの仕組みをつくる段階に入ることが求められると考えられる。	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	金沢星稜大学 神崎ゼミナール	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 6	株式会社ひらみばん		所在市町	金沢市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	代表取締役		
	氏名	平見 高広		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	関係人口を増やしていくための拠点作り
	内容	震災後の人口流出に伴い、地域内産業が縮小傾向にある中、周辺エリアからの人材を呼び込み関係人口を増やしていくにあたり、現状滞在、宿泊拠点が無い。またそれらを運営する人材やシステムもない。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	能登里山100年プロジェクト
	内容	企業： 七尾市内に飲食事業（石窯パン販売）・宿泊事業を営む拠点を設け、本事業を主軸にしながら七尾市内で復興に資する産業を営む意欲のある事業者の滞在交流拠点を作り運営を行う  大学： 七尾市内で復興に資する産業を営む意欲のある事業者の滞在交流拠点に必要な空間・機能ニーズのリサーチ、またワークショップを通じた空間作り
3 課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	令和8年度中に学生と現地のワークショップを複数回実施し、大学との連携プロセスを経て宿泊拠点としての開業を目標とする。 また、開業後は学生と一緒に地域資源の活用や体験を含めた宿泊プランの開発・実証実験なども行う。	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	金沢大学 人間社会学域地域創造学類 金沢大学 融合学域観光デザイン学類	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	○	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	団体No. 7	栗津自彊団	所在市町	珠洲市
	所属・役職	自彊団団員		
	氏名	濱山隆浩		
	電話番号		FAX番号	
Email				

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	自彊団の地震後の担い手流出と活動縮小による地域コミュニティの希薄化
	内容	能登半島地震後、珠洲市栗津地区では住民・若手の転出や生活再建の長期化で地域行事の担い手が不足し、地区の若手で構成する自彊団の団員も減少している。 これまで地域行事や住環境の保全活動を担ってきた自彊団の活動の規模縮小・役割の固定化が進み、日常の集いの場や活動機会が減少している。 地震後の山積した地域課題や時間的制約が重なり、若い世代の参画意欲が下がる悪循環が生まれ、地域コミュニティのつながりがますます低下し回復できていない。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	自彊団の活動に大学生に加わってもらい活動の活性化を支援していただき、若手の参画拡大と地域コミュニティの回復を図りたい。
	内容	自彊団： 地域コミュニティの復興のため、地区行事の開催や新たな地域課題の解決にむけた活動  大学： 自彊団活動への人手の提供とともに、アイデアの提供や専門的な分析・助言、活動の評価・記録・デジタルアーカイブ化など
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	住民減少や空き家の増加に伴い、夜間の安全面への不安、野良犬・猫の徘徊や獣害の顕在化が課題となっている。 地区内の空き家や更地周辺にソーラーライトを段階的に設置し、地域の“明かり”を増やして見通し確保と抑止効果を高めたい。 同時にソーラーライトにキリコ祭りの浮き字意匠を施し、地域固有の景観と誇りを可視化することで、安全対策と文化継承を両立させ、地域の連帯を高めたい。	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	石川県立大学 長野ゼミ	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

<b>団体No. 8</b>	井上地区まちづくり協議会設立準備会		所在市町	津幡町
連絡担当者	所属・役職	会長		
	氏名	代市 光男		
※活動の窓口となる担当者を記入してください。	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	災害避難場所の生活用水の確保 (継続申請)
	内容	「いつでも・どんなときでも安心・安全な井上地区まちづくり」をスローガンに防災に力を入れて活動している井上地区であるが、令和6年能登半島地震では、避難場所である井上公民館も断水に見舞われ、仮設トイレの洗浄水の確保が困難を極めた。その反省を踏まえて、令和7年度復興課題枠により、防災井戸の設置を目指した試掘と手押しポンプによる揚水試験に成功した。これを足掛かりに、高等教育機関の技術サポートを受けつつ、住民主導による恒久的な防災井戸の実装に繋げたい。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	災害避難場所への防災井戸設置、行政手続き、および地域の防災教育イベント化
	内容	津幡町井上地区まちづくり協議会設立準備会： 津幡町役場と連携して規制や権利等の法的な調整し、恒久的な井戸設置のための手続きを進める。ひきつづき、地域住民の意見を調整し、合意形成を図る。 防災井戸の本体設備等は地区の所有となるため、その本体設置費用を負担する。  石川高専： 防災井戸設置申請に係るデータを収集してもらおう。 令和7年度同様に本掘削・井戸設置の技術支援を行ってもらおう。 科学的知見に基づく防災井戸に関する住民説明を行ってもらおう。 飲用も視野に入れた場合、現実的にどこまで水処理できるか調査して欲しい。 いつ発生するか分からない災害に対応するため年間を通じて地下水位が確保されているのかどうか調べてほしい。 防災教育イベントでは学生に運営協力をお願いしたい。
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	<p>これまで取り組み： 令和7年度復興課題枠にて、防災井戸の試掘、可搬型手押しポンプ作成、揚水試験、簡易水質検査を実施した。揚水試験は成功しトイレ洗浄水に足る水量を確保できることを確認した。水質は細菌が多く飲用には危険である結果だった。</p> <p>令和8年度の成果目標： 井上地区の正式な防災井戸としての設置を目標とする。そのための、行政手続き処理、災害避難場所での掘削における技術的課題の克服が年度前半の目標である。年度後半は、設置された防災井戸を使った地域の防災教育イベント（地区防災訓練等と同時開催）の実施を目標とする。さらに年間を通じての、地下水位・水質変化の調査も実施する。また 昨年度制作した手押しポンプを使用して、学校プールから仮設トイレ設置場所までの導水を実施したい。併せて水質浄化にも取り組んで頂きたい。</p>	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	石川工業高等専門学校 教授 大橋 慶介	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
	<input type="radio"/>	事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

<b>団体No. 9</b>	いえ文化協会		所在市町	津幡町
連絡担当者	所属・役職	いえ文化協会・事務局長		
	氏名	山邊 奈生		
※活動の窓口となる担当者を記入してください。	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	継続的な笹葺きの維持方法
	内容	<p>石川県津幡町菩提寺地区には、全国に三棟しか現存しない笹葺き民家のうち一棟（河合家）が残されている。</p> <p>三棟の中でも、建設当初と同じ笹葺きの技法で葺き替えが継続されてきたのは河合家のみであり、地域の生活文化と建築技術を示す極めて貴重な遺構である。</p> <p>しかし、河合家は半世紀前に茅で葺き替えられて以降、再度の葺き替えが行われておらず、屋根の妻部分を中心に劣化が進行している。</p> <p>当団体は、河合家を建設当時の姿に復元し、文化財として登録することを目的としているが、笹葺き屋根は復元後も挿し笹などの定期的なメンテナンスが不可欠である。</p> <p>一方で、笹の確保、加工技術、保管方法、施工技術といった地域環境と一体となった維持の循環がすでに途絶えており、復元後の屋根を動的に維持していくための仕組みが地域内に存在しない。この「継続的な笹葺き維持方法の欠如」が、河合家の保存と文化財化に向けた最大の課題となっている。</p>
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	地域環境に根差した民家の循環・維持方法の構築
	内容	<p>いえ文化協会は、河合家の屋根修繕・維持管理・運用に係わる全体計画の策定および文化財登録に関する活動を行う。</p> <p>大学には、民家と周辺環境が一体となった持続可能な維持管理モデルの構築（材料調達、加工、保管、施工など）を共同で計画してほしい。</p>
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	<p>【これまでの取り組み】 任意団体 いえ文化協会発足後、現状保全として、河合家の掃除・周辺整備、妻部ブルーシート張り、雪囲い設置を実施してきた。</p> <p>【令和8年度の成果目標】 笹葺きの維持サイクルの構築： 復元作業を基に、笹葺きを維持するための材料調達・加工・保管・施工の循環モデルを整理し、地域で継続可能な仕組みとして完成させる。</p>	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	石川工業高等専門学校 熊澤 栄二	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
	<input type="radio"/>	事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 10	e-CRUTTTO		所在市町	白山市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	e-CRUTTTO 店長		
	氏名	越村 浩史		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	能登復興サイクリングツアー企画と石川県ナショナルサイクルルート選定への道
	内容	<p>能登半島は、ツール・ド・能登に代表されるように、サイクリストに人気の場所であり、県指定の「いしかわ里山里海サイクリングルート」も能登半島が大半を占めている。県内・県外事業者インバウンドツアーも多く実施されていた。このサイクリングルートを元にナショナルサイクルルートとして選定されるよう県としても様々な活動をしてきたが、能登半島地震以降は道路自体が機能不全となり、ツール・ド・能登の縮小開催、インバウンドツアーも回避となるなどせっかくの絶景を走ることができない状況にある。当然ナショナルサイクルルートの話も保留となっている。しかし、復興の兆しが見えはじめた今、石川県にナショナルサイクルルートができるような働きかけができないかと考えている。「いしかわ里山里海サイクリングルート」は石川県内各地が繋がっており、自転車専用道やレンタサイクル、サイクリングガイドが充実している白山とも接続している。この点を活かし、能登復興と石川県ナショナルサイクルルート選定への道筋をつくれなかと考えている。</p> <p>昨年「能登半島絶景海道サイクリング試験走行」を運営された(株)日本海コンサルタントを連携団体とする。</p>
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	能登復興のサイクリングツアーのための能登地域でのフィールドワークと、「いしかわ里山里海サイクリングルート」のPR活動
	内容	<p>大学側に期待する役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2024～2025年度に金城大学短期大学部のゼミ生は、白山麓での手取キャニオンロードツアーの様子をSNSで紹介し、PR活動をしてきた。そのノウハウを活かし、能登地域においても学生目線でのPR活動をしていただきたい。</li> <li>能登地域コミュニティツアーの企画に学生目線でアイデアをいただきたい。</li> <li>「いしかわ里山里海サイクリングルート」の白山手取川ルートについても引き続きイベント協力とPR活動に協力していただきたい。</li> <li>ナショナルサイクルルートについて、他県の様子と石川県との違いを学生目線で考えていただきたい。</li> </ol> <p>日本海コンサルタント・e-CRUTTTO側の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>能登地域コミュニティツアーを、学生にレンタル自転車で体験していただく。</li> <li>地域の観光業者や石川県の旅行会社と学生たちの橋渡しとなり、造成したモデルコースのモデルツアーを実現する。</li> <li>ナショナルサイクルルートについて、日本海コンサルタント・e-CRUTTTOが持っている富山湾岸サイクリングコース・福井わかさいくの情報を提供する。</li> </ol>
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	<p>令和6・7年度は、白山市の手取キャニオンロードを主なフィールドとして、金城短大の矢澤ゼミと連携活動してきた。車止めポールや『止まれ』表示の多さ、外国人向け表記の不足、利用者が地元サイクリストに偏っている等の課題を学生の視点から見いだした。特に車止めポールの問題については、行政や警察へ働きかけるきっかけにつながった。令和7年度は「鳥越センゴクフェスタ」でeバイクツアーも実施し、関係者以外へのPR活動も行った。また、「白山市が自転車活用推進計画を策定していない」という課題について、市議会議員への提言も行った。このような積極的な活動は、能登地域での活動にも生かされると考えている。日本海コンサルタント、e-CRUTTTO、矢澤ゼミと連携し、以下のような成果目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>能登地域コミュニティツアーの造成</li> <li>「いしかわ里山里海サイクリングルート」のPR</li> <li>ナショナルサイクルルート選定に向けた課題の洗い出し</li> <li>行政への働きかけ</li> </ul>	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	金城大学短期大学部 矢澤ゼミ	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
	<input type="radio"/>	事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

<b>団体No. 11</b>	合同会社能登みらい創造ネットワーク		所在市町	能登町
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	代表社員		
	氏名	竹内 剛		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	やなぎだ植物公園における子供が遊べる場づくり (復興課題枠No. 18)
	内容	震災直後は奥能登で子供が遊べる場所がなく、柳田植物公園を市町の境を越えて活用すべく行政、民間支援団体がサポートしました。 2025年は大型遊具の設置が済み、今後のあり方について子供の視点も取り入れた検討が大学のサポートにより実施されたところです。 2026年はポケモン遊具の導入やキノコ型テントの導入が計画されているほか、茅葺古民家の修復も進むことから、こどもの遊び場という視点をより幅広くとらえて、空間とコンテンツが融合した創造的な提案をいただきたいと考えています。 * 4年目/5年計画
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	創造的・文化的な視点からみた子供の楽しめる施設についての提言
	内容	企業側 ・子どもの遊び場に関する進行中の整備内容を共有 ・将来における空間設計の構想をとりまとめる 大学側 ・民家合鹿庵など公園内の他のエリアの活用方法の検討 ・空間や設備と合わせ遊び方を含めたコンテンツの検討(石川県キャンプ協会、NPO法人子供の遊び場などの各種団体が様々な企画を持ち込まれますが、より文化的な視点を含めた施設の活用方法について新しい視点を提案していただきたい)
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標		2023年度：公園全体のあり方とゾーニング案(官民連携の方向を考えた場合にも活用できるエリア分け)を検討し、提案をいただきました。 2024年度：ゾーニング案に沿い特定エリアについて具田的な空間設計について複数の提案をいただきました。 2025年度：大人目線での遊具の設置が進む一方で、子供とのWSを通じて子供の遊びに関するインサイト分析を行い、公園のありかたについて提案を受けました。 2026年度目標：遊具や施設整備が進む中で新しい空間や施設を活用した遊びコンテンツを創造的に検討したい。

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	金沢大学 豊島祐樹ゼミ 石川高専 村田一也ゼミ 金沢工業大学 片桐由紀子ゼミ	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	○	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 12	倶利伽羅を愛する会		所在市町	津幡町
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	刈安公民館・館長		
	氏名	酒井 菊次		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	限界集落における交流人口維持のための古民家交流拠点の整備
	内容	倶利伽羅不動寺にほど近い津幡町山森地区は、現在2世帯のみが暮らす山村の限界集落となっています。「歴史国道」および「歴史の道百選」指定されている北陸道・倶利伽羅峠(越)と、不動寺へ向かう新道(町道)の交差点には、築150年を数える本多邸が残されています。 将来的に廃村は避けたい状況にありますが、古道を散策する来訪者の休憩拠点としてこの古民家を活用し、倶利伽羅の歴史を継承するとともに地域住民との交流との交流拠点として整備することを希望します。 交流人口を維持・拡大する仕組みを定着させることが、今後の地域にとって重要な課題です。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	本多邸の内装改修
	内容	倶利伽羅の歴史を伝える地域拠点として本格運用するため、外装整備に続き内装改修を進めたいと考えています。倶利伽羅を愛する会は改修支援と完成後の運用企画を担い、ゼミナールには内装改修計画の立案と住民共同工事への協力を希望します。
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	本多邸の改修は、令和4年に地域課題研究ゼミナール支援事業に採択され、トイレ施設の整備を行ってきました。 令和7年にはクラウドファンディングにより屋根修理の資金を調達するなど、古民家の維持・活用に向けた準備を進めてきました。 令和8年度は地域の交流拠点としての運用に向け、内装改修に着手します。	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	石川高専 熊澤研究室	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか		事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 13	株式会社一膳		所在市町	金沢市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	物流部長		
	氏名	家出 篤史		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	学生と企業でつくる「食のインフラ」プロジェクト
	内容	石川県内で企業・個人給食弁当の製造・配達を行っている。 最近増えている「高齢者向け施設」等の利用者や、まだまだ市場開発の余地のある「若年層や共働き世代」に向けて、大学で学んでいる内容を活かしたメニューや、若者（当事者）の意見を取り入れたメニュー開発等を行い、また販売については認知度や利便性の向上について、学生と意見を出し合い、地域の食生活に貢献できればと思っている。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	認知度や満足度向上にむけた提案とその実施
	内容	大学 SNSプロモーション ・認知度向上のアイデア                      ・メニュー開発                      ・満足度向上のアイデア 等  企業 ・学生からのアイデア具現化とフィードバック ・プロジェクトに必要な情報提供（工場見学・衛生知識等）と人的協力
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	令和8年度成果目標 一膳グループインスタグラムのフォロワー1万人（認知度向上・現在3,200人） 学生の考案メニューの企画・利用者（満足度）向上	初めての応募です。是非連携させて頂きたいと考えております。取組み内容や目標についてご要望がございましたらお聞きしながら進捗を考えております。

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名		
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="checkbox"/>	事前に相談している
	<input type="checkbox"/>	事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職 かなざわっ子nikoniko倶楽部	代表		所在市町 金沢市
	氏名 喜成 清恵			
	電話番号 _____	FAX番号 _____		
	Email _____			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度) 多様な人に出会えるこども食堂	
	内容	「こども食堂」=「貧困・困難な家庭」というイメージがまだ社会にはあります。また「貧困・困難を抱える家庭」は、孤立する傾向があります。しかし、「こども食堂」には、色んな人が集う必要があります。なぜなら、「こども食堂」では困りごとの解決の糸口が見つかったり・コミュニケーションの機会をつくることのできるからです。だから社会から孤立しがちな家庭の為に「こども食堂」には多世代・異業種が参加して欲しいと願っています。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度) 多世代・異業種を巻き込むこども食堂	
	内容	地域： 「こども食堂」で料理を提供する。 参加してくれた家庭にソフトなお節介をやく、参加者同士のマッチングを行う。  大学： こども食堂に多世代・異業種の方を招待、社会に「こども食堂」をデザイン力で広報。
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	昨年は、「発達障害(特性)」をテーマに事業を実施いたしました。「発達障害」というワードをあえて前面に出すことによって当事者家族が参加しやすい環境をつくることが出来ました。支援する側も意識をもって接することが出来ました。令和8年度も孤立しがちな家庭が参加しやすい環境にするために、「こども食堂に行ってよかった」と実感してもらえるように、「小学校区に1か所のこども食堂」をスローガンとして「こども食堂」が増える取り組みを実施していきます。	

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	金沢学院大学 広根ゼミ	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="radio"/>	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 15	白山市役所		所在市町	白山市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	企画振興部デジタル課 課長		
	氏名	北村 光志		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	町内会における情報伝達のDX化
	内容	町内会の担い手の高齢化や若年層の町内会に対する価値観の多様化により、紙媒体の配布業務の負担、回覧に時間を要すること、家族間での情報共有、保管方法、災害時の安否確認などの課題を解決し、持続可能で安心して生活できる町内会をDXで構築したい。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	電子回覧板などの活用、デジタルデバイド対策の課題解決
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会業務を調査、業務負担の課題抽出、住民ニーズ調査</li> <li>デジタルデバイドへの支援案の提案</li> <li>災害時の安否確認等の取り組み提案</li> <li>負担軽減に向けた他町会を参考にしたDX化の提案</li> </ul>
3 課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会業務の現状を調査し、その課題とDX化による解決策の提案</li> <li>情報伝達に係る時間測定</li> <li>参加住民の便利さの意識調査</li> </ul>

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい大学・ゼミ教員名	0	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	<input type="checkbox"/>	事前に相談している
	<input type="checkbox"/>	事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 16	株式会社LOCAL GOALS		所在市町	金沢市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	代表取締役		
	氏名	中本 開子		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1 地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	震災が生んだ、輪島中学校で進行する選べない未来からの将来への諦め
	内容	輪島中学校の学生の皆さんが ・震災を受け、輪島での将来の不安が募り、自分の将来への諦め、能登から出ることを強く望むようになり、 ・輪島で今過ごしている学生生活に対して、期待度が低くなってしまっていると輪島中学校の教頭先生からご相談を受けております。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	今現在将来を考えている大学生と考える、キャリア教育授業の実施
	内容	1. 大学(ゼミ・学生)の役割:【理論の探求と若者の視点提示】 ・専門知見の活用:「限界集落・過疎化」に関する学術的視点(地域経済、社会学等)を基に、地域の現状分析や課題抽出を行う。 ・教育効果の還元:中学生に対して「大学での学びが社会課題にどう繋がるか」を伝える、ロールモデルとしての役割を担う。 ・アウトプットの作成:フィールドワークを通じ、若者の感性を活かした「地域活性化プラン」や「授業コンテンツ」の企画・立案を行う。  2. 当社(企業)の役割:【プロジェクトの伴走・マネジメント】 ・全体コーディネート:大学(理論)と中学校(現場)を繋ぎ、教育効果を最大化するためのカリキュラム設計および進行管理を行う。 ・学生へのメンタリング:専門的なビジネス視点から学生の活動を支援し、定期ミーティングを通じて「企画を形にする力」を育成する伴走支援を行う。 ・持続性の確保:助成金終了後も活動が継続できるよう、地域資源の掘り起こしや関係各所との連絡調整、リスク管理を一手に引き受ける。 3. 地域(輪島中学校等)の役割:【実践フィールドの提供と学びの共有】 ・現場視点の提供:地域が直面している「生の課題」を学生に提示し、教科書だけでは学べない実践的な学びの場(授業時間や放課後等)を提供する。 ・世代間交流の促進:中学生が大学生と協働することで、将来のキャリア(進学・就職)を主体的に考える機会を創出する。 ・成果の社会実装:学生が提案したアイデアを学校行事や地域行事で試験的に導入し、地域全体で教育効果を検証・共有する。  すでに、輪島中の先生と学生、当社でのミーティングを行い、これから共に活動していく旨を確認済みです。
3 課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標		これまでに取組みを実施しておらず、初の時組となるため令和8年度の成果目標のみご報告させていただきます。 令和8年度の成果目標は、震災後の不安を共有し、中学生にとって自分の将来に1番近く、等身大で話が聞ける大学生のロールモデルとの対話を通じ、進路選択において『諦め』ではなく『挑戦』を選択できる心理的土壌を醸成する

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	北陸大学経済経営学部マネジメント学科 津田 泰行 助教	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	○	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 17	野々市市		所在市町	野々市市
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	健康福祉部保険年金課 主査		
	氏名	山田 裕大		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1  地域が有する課題 (困っていること)  ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	概要 (一行程度)	未病状態の方に正しい内服管理から生活習慣病重症化予防の啓発
	内容	特定健診受診者において医師に服薬が必要と判断されても服薬されない方がいる。薬を服用する手前の方から健康への意識づけ活動を行い、生活習慣病の重症化を予防する。
2  課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと  ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	概要 (一行程度)	国保データベース (KDB) を利用した市民の医療費に関する分析を行い、市と課題共有し、事業展開に活用する。
	内容	【大学】 生活習慣病に関する治療薬が脳・心・腎臓を守るためにどのような効果があるかを啓発普及するとともに、必要に応じて薬に関する相談を受ける。 【野々市市】 相談や講話ができるよう市民が集まる場（高齢者の通いの場や子育て支援センター等）において教室企画を行う。
3  課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標		【これまでの取り組み】 「薬を服用する状態にある方」を対象に、おくすり手帳の活用や重複服用によるオーバードーズ防止に関する啓発普及をし、医療費の適正化を図る。 【令和8年度の成果目標】 ・医薬品使用に関する意識向上

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	金沢大学 菅教授、嶋田教授、石田准教授、渡辺助教	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	○	事前に相談している
		事前に相談していない

令和8年度地域課題研究ゼミナール支援事業 「地域からの要望」

I 申請団体及び連絡担当者

団体No. 18	奥能登食材流通機構		所在市町	能登町
連絡担当者 ※活動の窓口となる担当者を記入してください。	所属・役職	代表取締役		
	氏名	笹野 好伸		
	電話番号		FAX番号	
	Email			

II 要望内容

1	概要 (一行程度)	“食べて復興”能登応援プロジェクトver2
地域が有する課題 (困っていること) ※地域の現況を記載 ※イメージ図を添付	内容	能登半島地震および豪雨からの復旧・復興において、建物やインフラの整備に加えて、一人ひとりの「心の健康」の維持・向上と、経済再建が必須である。 海産物の加工・流通を行う弊社は、一昨年度から北陸大学と連携し、大学生との新商品の開発と販売を通して、我々はもとより、このプロジェクトに関わるすべての人の心の健康の維持・向上に取り組んできた。 次のステップの経済再建に向けて、共同開発した新商品を媒体として、地域循環型の経済活動に取り組んでいきたいと考えている。
2	概要 (一行程度)	データに基づいた商品開発・販売と、観光拠点と連携した経済再建による能登復興の持続可能な仕組み作り
課題解決に向け大学とともに取り組みたいこと ※大学、地域(企業含む)のそれぞれの役割が分かるよう詳細を記載	内容	2025年度の活動、および成果報告会で得た知見（ペルソナ設定、コンセプト構築）を深化させ、「イカの駅つくモール」を舞台としたフィールドワークを実施する。  大学は、2025年度大学・地域連携アクティブフォーラムでの成果報告にて、審査員からフィードバックを受けた「観光（客）に関するデータ分析からみたペルソナの設定やそれに基づく商品のコンセプト設定、販売戦略」を考え、実施する。 具体的には、例えば主の舞台となるイカの駅つくモールを訪れる観光客・地域住民の属性（一人、親子、団体等）や購買行動などを分析する。分析結果に基づき、「誰に」「何を」「どのような形態で（セット数・デザイン）」を提供すべきか、具体的な商品コンセプトと販売戦略を企画し、販売活動を行う。  地域（企業）は、「イカの駅つくモール」を実践の場とし、購買データや現場スタッフ・地域住民の肌感覚による情報共有を行う。大学の分析・提案を受け、弊社が中心となり商品の製作、パッケージ化、店舗での特設コーナー展開を行う。販売の結果を大学と共有し、能登地域の経済再建に向けた持続可能なビジネスモデルへのブラッシュアップを行う。
3	概要 (一行程度)	令和6年度に能登のふりを原料とする「能登ぶりそぼろ」を共同開発し、のと寒ぶりまつり2024で能登ぶりそぼろ丼を250杯を完売した。 令和7年度は、さいしんビジネスフェア（5月・埼玉）、シモキタ三ツ星バザール（11月・下北沢）に出展し、能登の魅力発信と共に、商品を累計300個、能登ぶりそぼろ丼を100杯完売した。また能登町の宿泊施設のおせち料理にも採用され、40kg（瓶詰め商品換算400個分）を卸した。
課題解決に向けたこれまでの取り組み・成果及び令和8年度の成果目標	内容	令和8年度は、これまでの活動が評価され、新たに「イカの駅つくモール」が協力パートナーとして加わることとなった。 これまでの活動で「マンパワーに頼った単発的な活動に留まっていた点」が課題として見えた為、令和8年度は「自分たちが動いて発信する」スタイルを継続しつつ、観光拠点の現場と連携した「持続的な仕組み作り」へステップアップする。 具体的には「イカの駅つくモール」で「能登ぶりそぼろ」を販売・展開し、能登の魅力を持続的かつ広範的に発信する。商品設計の改善やイベント開催にも取り組む。 また、大学生がまとめた「イカの駅つくモール」の購買データの分析結果を地域内で共有し、能登町の経済再建の一助を目指す。

III 連携して取り組みたい大学のゼミ等について ※希望があれば記入してください。

1 連携したい 大学・ゼミ教員名	北陸大学 坂口雄介助教	
2 連携を希望するゼミ等と事前に申請内容を相談していますか	○	事前に相談している
		事前に相談していない